

校長先生の初恋物語

第9話 バラ色の人生



「まっ、まさかこんなことが……。」とつくくんがつかんだくじは、なんと、よしこさんのとなりの席でした。神様は本当にねがいごとをかなえてくれました。

自分のつくえを、一番前にいる、よしこさんのとなりまで運びました。よしこさんはちらちらと、とつくくんの方を向きながらまっています。とつくくんの方を向いて、にこに

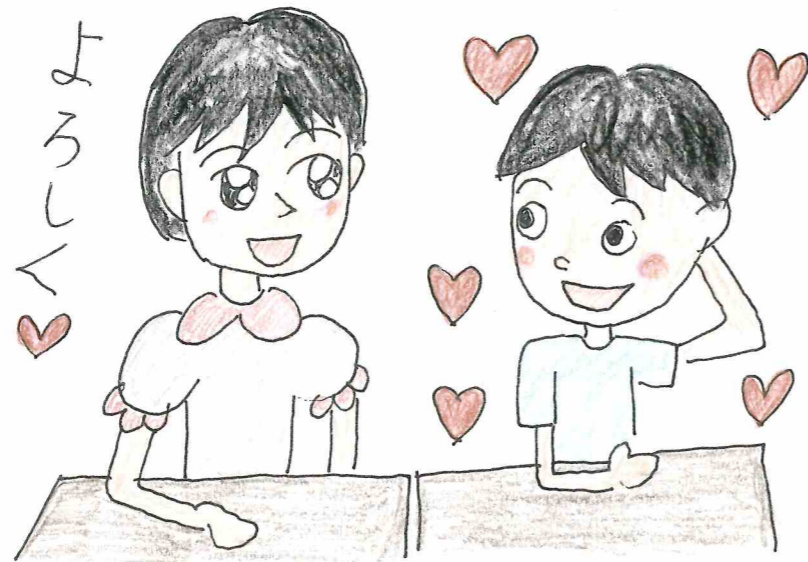
こしています。目が合うだけで、とつくくんは顔がまっかになってしまいます。ついに、すぐ横まで来ました。

「とつくんと席がとなりになるの、初めてだね。よろしく♡」

ああ……。生きてて良かった……。春風のようなあたたかな声、青空のようにすみきった声、その声を聞いただけで、とつくくんはれいとうこにいれたつもりがまちがえてれいぞうこに入れてしまったバニラアイスのように、とろとろにとけてしまいました。

その日から、とつくくんの人生は、バラ色です。となりにはいいつもよしこさんがいます。1時間目も、2時間目も、自分の一番近いところによしこさんがいます。右を見れば、いつもよしこさん。

よしこさんのおかげで、勉強が好きになってきました。よしこさんは、とつくくんの分からないところをいつも教えてくれました。本当に優しいんです。勉強を助けてもらうおん返しに、給食はとつくくんが助けてあげます。よしこさんがきれいな牛乳を、によろひげ先生に見つからないように、毎日、こっそり飲んであげました。こうして、よしこさんと、とつくくんは、



ラブラブな毎日を送っていたんです。

そんな二人のラブラブぶりを、遠くからずっとにらみながら見ていたのが、足長君です。きんに君が骨をおってしまった時、真っ先ににげだしたので、前より女の子のファンがへっていました。ぎゃくに、とつくくんは、きんに君を助けたヒーローになっていたのも、そのことがますます足長君にとっては気に入らなかったのです。そしてだめ押しは、よしこさんのとなりの席も、とつくくんにとられて、とつくくとよしこさんはラブラブになるし。自分のとなりは、きょうふのダンプさん。足長君にとっては、まったくついていない日々が続いていたので、いらいらして、前よりも足長君の顔つきはこわくなっていました。とつくくんに対するいやがらせも、どんどん多くなっていきました。



ドッジボールをみんなでやれば、足長君がとつくくんを集中的にねらいます。そしてとつくくんを当てると「ふんっ。」と鼻で笑います。とつくくんが、じゅぎょう中に手をあげて、そしてまちがえた答えを言うと、一番後ろから、一番大きく笑い、「とつくくんって、ばかなんだなあ。」といやなことを言ってきます。休み時間によしこさんと楽しくはなしをしていると、背中にチョークやけしごむを投げってきます。とつくくんは、そんな足長君のいやがらせがいやでたまりませんでした。でもよしこさんはいつも「気にしない。気にしない。」と言ってくれるからがまんできました。

よしこさんとのバラ色の毎日は続きました。この幸せは、えいえんです。よしこさんも、とつくくんのことが好きになったんじゃないのかなと思う一言が、ついによしこさんの口から出てくるのです。その言葉とは……。



よしこさんはとつくくに、何を言ったのか。恋のライバル、足長君もこのままでは終わらない。それに、とつくくんには、ダンプさんという、もう一人好きになってしまった人が。さあ、マンモス小学校のラブストーリーは、このあと、とんでもないことになっていきます。

次回予告

よしこさんの愛のことは